

令和7年度 墨田区立吾嬬立花中学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 河野 敏也

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 文武両道の精神のもと、社会貢献できる人材を育成し、寄り添い、共に学び、成長を喜び合う、学びたい・勤めたい・預けたいチーム吾立中 |
| 目指す学校像 | ○文武両道の明るく楽しい規律のある学校 ・「確かな学力の定着と向上」を図る授業改善 ・「自主・自律・貢献」を育む生徒指導・進路指導 ・「自尊感情」を育む特別活動 ・「地域への愛着」を育む連携行事 |
| 目指す生徒像 | ○「見つめる力」「挑戦する力」「乗り越える力」「つながる力」 ・礼節を重んじ、主体的で真剣に学ぶ生徒 ・人権尊重を基盤とし、自他ともに大切に思いやり溢れる生徒 ・様々な困難を乗り越え、しなやかにチャレンジする前向きな姿勢を持つ生徒 |
| 目指す教師像 | ○生徒とともに、互いの教師とともに、家庭・地域とともに学ぶ教師 ・広い視野に立ち、組織的に行動できる教師 ・常に研鑽を積み指導力を向上させるとともに、授業改善に努力する教師 ・生徒一人一人の気持ちを理解し、どの生徒にも公正公平に対応できる教師 |

○令和7年度 学校経営計画における重点内容
 ・教材教具、指導法の工夫改善により、分かりやすい授業、感動を喚起する授業実践
 ・教育DXに対応し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、生徒一人一人の可能性を伸ばす授業改善
 ・生徒が自らの目標を掲げ、自己調整力と創造性、貢献力の伸長を図る生徒指導・進路指導
 ・全ての生徒の出番がある特別活動
 ・家庭・地域の教育力を生かす開かれた学校づくり

| 項目 | 取組目標 | 具体的方策 | 取組指標 | | 成果指標 | | 分析 | 改善方策 | 学校関係者評価 | | | | | |
|--------|---|--|------|---|------|----|---|------|--|---|-----|---|---|---|
| | | | | 評価 | | 評価 | | | 自己評価 | 改善方策 | 意見等 | | | |
| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現による確かな学力の定着と向上。 | タブレットやデジタル教材とペーパーによる問題データベースを有効活用して、知識・技能の定着を図る。また、協働的な学びでの話し合い活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めさせる。 | 4 | 教職員アンケート「分かりやすい授業への工夫」項目で肯定的回答90%以上 | 4 | 4 | 生徒アンケート「分かりやすい授業」項目で肯定的回答90%以上 | 3 | ねらいの明示化と振り返りを意識させることで、何が身に付いたのか否かが分かりやすくと感じられている。さらにデジタルを積極的に活用していることも理解のしやすさの一助になっている。 | 教員一人一人の授業力の向上を目指し、個別最適な学びや協働的な学びにおいて、デジタルの思考ツールの活用が必要。各授業内で「話し合わせ」「説明させる」「発表させる」といったアウトプット活動を促進する。 | A | 7 | 6 | ・方策にあるようにデジタル思考ツールを協働的な学びにつなげることが大切と考えます。 ・個別と協働が両立しているよと思います。デジタルと紙ベースの併用も一考すべきである。 |
| | | | 3 | 教職員アンケート「分かりやすい授業への工夫」項目で肯定的回答80%以上 | | 3 | 生徒アンケート「分かりやすい授業」項目で肯定的回答80%以上 | | | | B | 1 | 2 | |
| | | | 2 | 教職員アンケート「分かりやすい授業への工夫」項目で肯定的回答60%以上 | | 2 | 生徒アンケート「分かりやすい授業」項目で肯定的回答60%以上 | | | | C | 0 | 0 | |
| | | | 1 | 教職員アンケート「分かりやすい授業への工夫」項目で肯定的回答60%未満 | | 1 | 生徒アンケート「分かりやすい授業」項目で肯定的回答60%未満 | | | | D | 0 | 0 | |
| 各教科指導等 | 「分かりやすい」授業実践、「感動を喚起する」授業工夫により、主体的な学びを促し、家庭学習習慣を身に付けさせる。 | 年3回の校内研修と年2回の互見授業による授業観察を設けることで、授業力、指導力の向上を図り、主体的で深い学びへ繋げる。 | 4 | 生徒アンケート「アドバイスに基づき家庭学習を行っている」項目で肯定的回答90%以上 | 2 | 4 | 保護者アンケート「工夫した授業を実践し、一人一人の学力を伸ばそうとしている」項目で肯定的回答90%以上 | 3 | 家庭学習を毎日デジタル教材で配信して、関連した内容について授業で取り扱うことが基礎的な知識の積み上げに繋がっている。また、各先生が授業観察に気軽に来ることで、生徒にとっては学び合いのロールモデルになっている。 | 家庭学習範囲から出題したコンテンツ「マイスタ・マイスター」を実施し、満点生徒を表彰する。生徒が楽しみながら競い合い、学びあう体験の場を設定していく。授業実践集を作成し、吾立スタンダードな授業展開をどの教員でもできるようにする。 | A | 4 | 5 | ・ミライシードの活用で昨年より70%に向上したが、残り30%をどのように上げるか課題。 ・ミライシードの活用率が15%アップは大きな成果です。 ・分かりやすい授業が実践できていると思います。家庭学習の習慣化が定着することを期待します。 |
| | | | 3 | 生徒アンケート「アドバイスに基づき家庭学習を行っている」項目で肯定的回答70%以上 | | 3 | 保護者アンケート「工夫した授業を実践し、一人一人の学力を伸ばそうとしている」項目で肯定的回答70%以上 | | | | B | 3 | 2 | |
| | | | 2 | 生徒アンケート「アドバイスに基づき家庭学習を行っている」項目で肯定的回答60%以上 | | 2 | 保護者アンケート「工夫した授業を実践し、一人一人の学力を伸ばそうとしている」項目で肯定的回答60%以上 | | | | C | 1 | 1 | |
| | | | 1 | 生徒アンケート「アドバイスに基づき家庭学習を行っている」項目で肯定的回答60%未満→58% | | 1 | 保護者アンケート「工夫した授業を実践し、一人一人の学力を伸ばそうとしている」項目で肯定的回答60%未満 | | | | D | 0 | 0 | |
| | 社会的な自立や貢献力の伸長に向けた進路指導・キャリア教育の充実を図る。 | 1学年での職業調べ、2学年での職場体験、3学年での上級学校訪問の実施と総合的な学習の時間や道徳、学活の時間を通して生き方についての学習を深める。 | 4 | 教職員アンケート「生き方教育」項目で肯定的回答100% | 3 | 4 | 生徒アンケート「生き方教育」項目で肯定的回答90%以上 | 3 | 生徒アンケートでは昨年度より4ポイント向上した。総合的な学習の時間や学活の時間の充実を図ることで正しい勤労観を育むことができた。生徒会朝礼の回数を増やし、自治力を高めている。 | 学活や行事で自治を意識させ、総合的な学習の時間での探求活動、道徳の時間での対話を通じて横断的なキャリア教育につなげる。キャリアパスポートをさらに活用し将来の自分を具体的にイメージさせる。 | A | 6 | 6 | ・生徒アンケートが4%向上したのは大きな成果です。 ・キャリア教育の一環として、地域人材の活用は指導要領でも謳われている。各町会長さんなどより地域の人材の情報を得てミニ講演などお願いしたい。 |
| | | | 3 | 教職員アンケート「生き方教育」項目で肯定的回答80%以上 | | 3 | 生徒アンケート「生き方教育」項目で肯定的回答80%以上 | | | | B | 2 | 2 | |
| | | | 2 | 教職員アンケート「生き方教育」項目で肯定的回答60%以上 | | 2 | 生徒アンケート「生き方教育」項目で肯定的回答60%以上 | | | | C | 0 | 0 | |
| | | | 1 | 教職員アンケート「生き方教育」項目で肯定的回答60%未満 | | 1 | 生徒アンケート「生き方教育」項目で肯定的回答60%未満 | | | | D | 0 | 0 | |
| | いじめ、不登校生徒を出さない予防の取組や解消のための取組を行う。 | 毎月の生活アンケートの実施で、初期対応と解決に向けた連携行動をとる。また、各関係機関との連携による登校に向けた支援や、一人一人へのきめ細やかな指導によるSSRの運営を行う。 | 4 | 教職員アンケート「いじめ・不登校を生まない取組」項目で肯定的回答100% | 4 | 4 | 保護者アンケート「いじめや不登校、問題行動の予防や解決に努力している」項目で肯定的回答80%以上 | 1 | 保護者アンケートでは「わからない」との回答が38%を占めている。学校側の取組に対して、保護者への周知が足りない現状がうかがえる。生徒は84%の生徒がいじめ防止を心がけ、万一の際には大人に相談すると答えている。 | いじめや不登校はデリケートな問題であるが、生徒タブレットを活用した生活アンケートの保護者への周知、SSRをはじめとした不登校予防と改善の取組を学校だよりやCocoo配信、HPを通じて紹介する。 | A | 1 | 3 | ・保護者アンケート「わからない」の回答を除いた62%を全体とすると、肯定的回答の割合は88%になります。 ・取り巻く生徒達を傍観者にしないよう「生徒会」での働きかけを重視する。 |
| | | | 3 | 教職員アンケート「いじめ・不登校を生まない取組」項目で肯定的回答90%以上 | | 3 | 保護者アンケート「いじめや不登校、問題行動の予防や解決に努力している」項目で肯定的回答70%以上 | | | | B | 5 | 5 | |
| | | | 2 | 教職員アンケート「いじめ・不登校を生まない取組」項目で肯定的回答80%以上 | | 2 | 保護者アンケート「いじめや不登校、問題行動の予防や解決に努力している」項目で肯定的回答60%以上 | | | | C | 2 | 0 | |
| | | | 1 | 教職員アンケート「いじめ・不登校を生まない取組」項目で肯定的回答80%未満 | | 1 | 保護者アンケート「いじめや不登校、問題行動の予防や解決に努力している」項目で肯定的回答60%未満 | | | | D | 0 | 0 | |
| 生活指導等 | 基本的な生活習慣の確立と人間関係づくりのための心の教育の充実。 | あじみこしを合い言葉に、教職員間で基本的な生活習慣が身に付くまで寄り添う指導を行う。また、委員会と係活動の充実により、自治力と貢献力の育成を図る。 | 4 | 教職員アンケート「学校生活指導状況」項目で肯定的回答100% | 4 | 4 | 生徒アンケート「学校生活取組状況」項目で肯定的回答90%以上 | 4 | 生徒アンケートでは挨拶で93%（昨年89）、時間で90%（89）、身だしなみで91%（89）の肯定的評価を得た。昨年度よりも各数値が上昇している。あじみこし指導の実践と、掲示板での呼びかけが奏功している。 | 学校だよりや掲示板での発信、校長や週番教員による毎朝の挨拶活動が実を結んでいる。人を傷つけない言葉遣いに関する指導と、自治力をさらに高める主体的自律的な態度の発揮される場面を増やしていく。 | A | 8 | 8 | ・日頃の生徒の学校での様子がそのままアンケートの高数値につながっていると思います。 ・あいさつが定着しているよと思います。思いやりを育てる取組を継続していけるとよと思います。 |
| | | | 3 | 教職員アンケート「学校生活指導状況」項目で肯定的回答90%以上 | | 3 | 生徒アンケート「学校生活取組状況」項目で肯定的回答80%以上 | | | | B | 0 | 0 | |
| | | | 2 | 教職員アンケート「学校生活指導状況」項目で肯定的回答80%以上 | | 2 | 生徒アンケート「学校生活取組状況」項目で肯定的回答60%以上 | | | | C | 0 | 0 | |
| | | | 1 | 教職員アンケート「学校生活指導状況」項目で肯定的回答80%未満 | | 1 | 生徒アンケート「学校生活取組状況」項目で肯定的回答60%未満 | | | | D | 0 | 0 | |
| | 安全を確保するための取組の充実と危機回避能力の育成。 | 安全指導計画に沿った意図的・計画的な安全指導の取組と危機回避能力の育成を行う。 | 4 | 教職員アンケート「安全に関する取組」項目で肯定的回答100% | 4 | 4 | 生徒アンケート「安全に関する取組」項目で肯定的回答90%以上 | 4 | 生徒アンケートでは「避難訓練や安全指導」の学びの肯定的評価が93%、「安全・安心な生活への心がけ」が92%であった。毎月の朝礼時の安全指導や避難訓練の工夫が成果をあげている。 | 全職員で安全教育を行っていることを強く意識させる。従前の「地震」「火事」の避難訓練だけでなく、様々な種類の防災・減災教育を取り入れる。トラブルの多いSNSについてルールの見直しを行う。 | A | 6 | 7 | ・中学校が避難所になった際の行動などもシミュレーションできるとよい。 ・アンケート数値にあるように生徒の防災意識は大変高く、避難訓練にもしっかり参加できています。 |
| | | | 3 | 教職員アンケート「安全に関する取組」項目で肯定的回答90%以上 | | 3 | 生徒アンケート「安全に関する取組」項目で肯定的回答80%以上 | | | | B | 2 | 1 | |
| | | | 2 | 教職員アンケート「安全に関する取組」項目で肯定的回答80%以上 | | 2 | 生徒アンケート「安全に関する取組」項目で肯定的回答70%以上 | | | | C | 0 | 0 | |
| | | | 1 | 教職員アンケート「安全に関する取組」項目で肯定的回答80%未満 | | 1 | 生徒アンケート「安全に関する取組」項目で肯定的回答70%未満 | | | | D | 0 | 0 | |

| 項目 | 取組目標 | 具体的方策 | 取組指標 | | 成果指標 | | 分析 | 改善方策 | 学校関係者評価 | | | | |
|---------|---|--|------|--|------|----|-------------------------------------|------|--|--|-----|---|---|
| | | | | 評価 | | 評価 | | | 自己評価 | 改善方策 | 意見等 | | |
| 学校の管理運営 | 学校経営方針のもと、意図的・計画的・組織的な学校運営を行う。また、子供の実態に合わせた教育目標の設定及び評価を適切に行う。 | 月2回の主幹会と企画調整会議を確実に実施して、情報共有を確実に行うとともに、連携して教育活動にあたる。また、生徒アンケートや保護者アンケートにより、意見や要望を聞き取り、教育活動の改善を促進していく。 | 4 | 生徒アンケートの回収率90%以上 | 3 | 4 | 保護者アンケート「本校の教育に満足している」項目で肯定的回答90%以上 | 2 | 生徒の学校生活満足度は87%で、昨年度よりも4%の向上が見られた。第2回の保護者アンケートの回収率が20%を割り込んでおり、協力いただける家庭を増やすことが課題である。主幹会や企画調整会議は計画通り実行できた。 | 冬の三者面談においてもアンケートの協力依頼を行ったが、低調であった。Cocoo配信や学校だより、学年だよりでの発信やその場で答えてももらえるような形を工夫していく。授業の様子や内容が伝わる情報発信を心掛ける。 | A | 3 | ・回答率の向上は課題です ・学校改善が年々進んでいるので、回答率が上がればさらに高い数値が示されると考えます。未回答生徒・保護者への追跡調査ができればよいのですが。 |
| | | | 3 | 生徒アンケートの回収率80%以上 | | 3 | 保護者アンケート「本校の教育に満足している」項目で肯定的回答80%以上 | | | | B | 5 | |
| | | | 2 | 生徒アンケートの回収率70%以上 | | 2 | 保護者アンケート「本校の教育に満足している」項目で肯定的回答70%以上 | | | | C | 0 | |
| | | | 1 | 生徒アンケートの回収率70%未満 | | 1 | 保護者アンケート「本校の教育に満足している」項目で肯定的回答70%未満 | | | | D | 0 | |
| | 教職員の働き方改革を推進する。 | 教育DXを推進し、情報共有の効率化を図っていく。さらに教職員が業務を見直すとともに、月あたりの残業時間を意識し、効率の良い働き方を実践する。 | 4 | 教職員アンケート「働き方推進」項目で肯定的回答90%以上 | 2 | 4 | 月残業時間45時間未満教職員100% | 2 | Teamsの活用によるペーパーレス化の影響が、よい部分も悪い部分も見えてきた。会議時間は1時間以内でできている。主幹や主任に仕事が集中している。 | 若手教員を含む仕事分散への呼びかけを行う。日々の提出物チェック等の校務をICTを活用しスリム化する。45時間以内の残業達成に向けたスローガンを掲示する。 | A | 1 | ・教職員の方はよくやっています。負担を分散してください。 ・スクールサポートスタッフの活用も考えてください。 ・部活動地域移行等教育行政の改革が必須と考えます。 ・会議議題を報告事項と協議事項に明確に分類してください。 |
| | | | 3 | 教職員アンケート「働き方推進」項目で肯定的回答80%以上 | | 3 | 月残業時間45時間未満教職員85%以上 | | | | B | 6 | |
| | | | 2 | 教職員アンケート「働き方推進」項目で肯定的回答60%以上 | | 2 | 月残業時間45時間未満教職員70%以上 | | | | C | 1 | |
| | | | 1 | 教職員アンケート「働き方推進」項目で肯定的回答60%未満 | | 1 | 月残業時間45時間未満教職員70%未満 | | | | D | 0 | |
| | 適切な教育環境・設備が整えられるとともに校内美化に努め、充実した教育活動を促進する。 | 学校は毎日の美化点検を行う。さらに、施設や設備の安全点検を定期的に行い、必要な修繕に対しては迅速に対応する。 | 4 | 教職員アンケート「美化点検」項目で肯定的回答90%以上 | 4 | 4 | 生徒アンケート「美化活動・点検」項目で肯定的回答90%以上 | 4 | 生徒アンケートでは昨年度より4ポイント向上した。NKシステムを活用し、速やかな修繕依頼の体制は作れている。教職員の美化活動に対する意識が高い。教室を中心に整理整頓を心掛けている。 | 美化委員等生徒会活動を通じて美化意識の向上を図る。今年度設置した掲示板をさらに活用して情操教育や広報活動など、よりよい教育環境を整える。 | A | 8 | ・生徒アンケートが4ポイント向上していることがきれいな校内の様子から分かります。 ・校内がいつもきれいで素晴らしいし、安心できます。 |
| | | | 3 | 教職員アンケート「美化点検」項目で肯定的回答80%以上 | | 3 | 生徒アンケート「美化活動・点検」項目で肯定的回答80%以上 | | | | B | 0 | |
| | | | 2 | 教職員アンケート「美化点検」項目で肯定的回答70%以上 | | 2 | 生徒アンケート「美化活動・点検」項目で肯定的回答70%以上 | | | | C | 0 | |
| | | | 1 | 教職員アンケート「美化点検」項目で肯定的回答70%未満 | | 1 | 生徒アンケート「美化活動・点検」項目で肯定的回答70%未満 | | | | D | 0 | |
| 家庭・地域連携 | 教育方針や教育活動の様子を分かりやすく伝える。 | 学校だよりや学年だよりを月1回以上紙ベースで配布するとともに、ホームページやCocoo等でも積極的に情報発信を行う。 | 4 | 教職員アンケート「情報発信」項目で肯定的回答100% | 2 | 4 | 保護者アンケート「情報発信」項目で肯定的回答90%以上 | 3 | 学校HPは月に3回以上の更新を行うことができた（学校だより・給食・行事予定等）。学年だよりも月2回のペースで発行し、学年によっては毎週発行しているところもある。 | 学年だより等も紙とICTの良いところ取りができるよう工夫する。引き続きCocoo配信を活用し保護者への理解に努めていく。 | A | 5 | ・学校は具体的方策通り情報をしっかり発信しています。取組目標の設定数値が高すぎるのではと考えます。 ・便りとHPがとても分かりやすいと思います。 |
| | | | 3 | 教職員アンケート「情報発信」項目で肯定的回答90%以上 | | 3 | 保護者アンケート「情報発信」項目で肯定的回答80%以上 | | | | B | 3 | |
| | | | 2 | 教職員アンケート「情報発信」項目で肯定的回答80%以上 | | 2 | 保護者アンケート「情報発信」項目で肯定的回答60%以上 | | | | C | 0 | |
| | | | 1 | 教職員アンケート「情報発信」項目で肯定的回答80%未満 | | 1 | 保護者アンケート「情報発信」項目で肯定的回答60%未満 | | | | D | 0 | |
| | 学校は保護者や地域からの声を受け止め、理解や協力を得るとともに、家庭・地域の教育力を生かす教育活動を展開する。 | 学校行事・地域連携行事・ボランティア活動等で保護者や地域との連携を深める。また、保護者や地域からの相談には真摯に受け止め、解決に向けて連携を図る。 | 4 | 教職員アンケート「保護者・地域からの声の受け止め」項目で肯定的回答100% | 3 | 4 | 保護者アンケート「学校の受け止め」項目で肯定的回答90%以上 | 2 | 学校ハローワークや3年面接練習会など、地域人材を活用して教育活動を行うことができた。また、東京未来大学から教授を招いての特別授業や、生徒会やボランティア部の募金活動、レンジャー隊の防災訓練参加等、友愛祭以外にも多くの地域連携行事を行うことができた。 | 保護者アンケートにおいて「わからない」が21%を占めるように、各試みが保護者にまで伝わっていないことが課題である。HPやCocoo配信の活用を、教育活動の報告という面でも強化していく。 | A | 5 | ・保護者アンケートでわからないということが、なぜわからないのか意見を記述してもらおう。 ・HPをどんどん活用し楽しく様子や活動をアピールする。 ・保護者アンケート「わからない」を除いた割合を全体と考えると各項目で肯定的な回答の割合が80%以上になります。 ・地域連携は良好です。 ・ペーパーもHPもよいが、毎年4月と10月くらいの保護者会を土曜日に開催してみる。 |
| | | | 3 | 教職員アンケート「保護者・地域からの声の受け止め」項目で肯定的回答90%以上 | | 3 | 保護者アンケート「学校の受け止め」項目で肯定的回答80%以上 | | | | B | 3 | |
| | | | 2 | 教職員アンケート「保護者・地域からの声の受け止め」項目で肯定的回答80%以上 | | 2 | 保護者アンケート「学校の受け止め」項目で肯定的回答60%以上 | | | | C | 0 | |
| | | | 1 | 教職員アンケート「保護者・地域からの声の受け止め」項目で肯定的回答80%未満 | | 1 | 保護者アンケート「学校の受け止め」項目で肯定的回答60%未満 | | | | D | 0 | |

○令和7年度 学校経営報告のまとめ（総括）

- ・教員同士がお互いの授業を見合い、学び合いをすることで教科指導力の向上を図ることができた。個別最適な学びと協働的な学びを深めるためにも、アウトプットのさせ方に工夫を加えていく。
- ・生活指導上の問題には早期発見・早期対応・早期解決を軸として取り組んできた。その様子が外へ上手く伝わっていないため、アンケート回答に「わからない」との回答が多かった。生徒の様子をさらに伝えていく工夫をする。